

しなやかな強さで 未来を切り拓き、地域に、世界に 貢献する大学へ

山口大学
学長インタビュー



2 022年4月、山口大学は谷澤幸生新学長が就任し、新しい一步を踏み出しました。新たなビジョンを策定し、その視線は未来を、世界を見据える。谷澤学長にビジョンに込めた思いや山口大学の将来像について聞きました。

就任からこれまでを振り返って

学長に就任して見える景色が変わったと感じます。山口大学は、9学部8研究科の総合大学で、それぞれの学部が学部長をリーダーとして個性を出しています。学長として大学全体を見渡し、方向性を誤らないようにしなければなりません。変わった景色をこれまで以上に隅々までよく見て、心を配りたいと思います。

また、この大きな組織の中で教職員・学生が一丸となって同じ方向へ進むことができるよう、「教育、研究、地域、ダイバーシティ、経営」の5つを柱とする「明日の山口大学ビジョン2030」を新たに策定しました。

5つの柱の中でも特徴的な「ダイバーシティ」に込めた思いは？

まずジェンダーダイバーシティが重要と考えており、男女共同参画や女性の活躍といったことは当たり前になっていると思っています。大学には留学生や外国人研究者も多く在籍しています。宗教や性自認、障害の有無などにかかわらず、誰もが活躍できる環境をつくります。また、学問において、「異分野融合」や「学際的」といった言葉がよく聞かれますが、学問・研究のダイバーシティも重要です。ダイバーシティは活力の源泉です。組織に活力をもたらし、学問・研究の活性化にもつながります。前回のビジョ

ン（明日の山口大学ビジョン2015）で大きなテーマの一つであった「グローバル化」も、ダイバーシティに含まれると考え、引き続き推進していきます。

ビジョンでは「しなやかに」という言葉が繰り返し出てきます

世の中が急速に変化する中で、「しなやかさ」は非常に大事だと思うのです。教育や研究において、社会の変化にしなやかに対応し、動きを敏感に感じ取って新しい流れを作っていくことは重要です。

曲がるけれども折れず、簡単には倒れない竹は、鋼（はがね）とは違う意味の強さがあります。竹のように、変化に応じて形を変え、折れずに前へ進んでいこうとする、自ら未来を切り拓く人材を育てていきたいと考えています。



社会の変化に
しなやかに対応し、
新しい流れを作る。

策定の過程で特に意識した点は？

ビジョンの中で「対話と合意を基本とするしなやかな大学経営」を掲げています。ステークホルダーの意見をよくお聞きし、その上で最終的に判断したことは、きちんと説明した上で、私が責任を持って前へ進めてゆきたいと思っています。同様にビジョンの策定においても学生や教職員を対象にパブリックコメントを実施するなど、幅広い意見を聞きながら進めました。

その課程で、国際総合科学部のSIGNALというサークルに所属する学生が協力を申し出てくれ、議論の過程を文字や絵を使って可視化する「グラフィックレコーディング」という手法を用いて、ビジョンに込めた思いや意図を学生視点でビジュアル化してくれました。おかげで分かりやすく、親しみやすいものになりました。全部のイラストはホームページに掲載されていますので、是非ご覧ください（https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_vision/）。

地域や企業との関係はどのように構築していきますか？

山口大学は地域に頼られる存在になる必要があります。これまで教員が県や市町の委員会などに加わって

ますが、施策を企画する段階から参画し、産業振興や地域活性化といった課題に対し、専門家として解決に向けた提案をしていきたいと考えています。しかしながら、いくら良い取り組みでも、押し売りになってはいけません。大学や地方自治体、産業界が連携し、地域課題の解決へ議論を深める「地域連携プラットフォーム」を整備し、地域や企業と顔を合わせて意見を聞き、信頼関係を構築していきます。

DXの推進が必要とされる中で、特に即戦力人材の社内育成が難しい中小企業からは、リカレント教育や、社会の変化に対応して新たに必要とされるスキルを習得するリスキリング教育の役割も期待されており、このようなニーズも大事にしていきます。

目指す山口大学の将来像は？

よい教育、研究があって初めて大学の価値があると考えます。また、全国各地、地域ごとに特色があります。地域で人材を育て、活躍する人材を輩出することが必要です。世の中に必要とされ認められる大学であることが基本です。

本学の学生が卒業時に、山口大学に来て成長できた実感でき、知識も知恵も深まり、良い友人や師に巡り会えたと感じられる大学でありたいと思っています。